

令和6年度 特別の教育課程（立川市民科）の実施状況等について

1. 学校名 立川市立 若葉台小 学校

2. 令和6年度 学校における自己評価（箇条書きでご記入ください。）

立川市民科の取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の実態と児童の思いや願いを生かした学習を展開でき、自分事として調べ、発表することができた。児童一人一人が「相手に伝えたいこと」を自分で考えて行動することを大切にし、地域社会とのつながりを工夫した学習を展開したところ、友達の考えや教師の助言を生かしながら、課題解決に向けて主体的に取り組み、よりよい地域づくりに参画しようとする態度を養うことができた。 ・自分の考えを自信をもって発表できるようになったり、いろいろな人と積極的にコミュニケーションを図ったりしようとする児童が増えた。
立川市民科の取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えを聞きながら授業の流れを組み立てて学習を展開していくと、地域の様々な人々とつながり学習の幅も広がるが、教師が連絡等すべき諸関係機関の数も必然的に多くなり、連絡や調整に時間がかかることが課題である。 ・他地区から異動してきた教員が立川市民科の趣旨等を理解して指導するのに時間を要している。

3. 令和6年度 学校評価に係る共通項目のうち

①対象：児童・生徒

項目：⑫立川市民科では、自分で立てた課題について、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現することができた。

(割合)

そう思う	概ねそう思う	あまりそう思わない	思わない	わからない
44.5%	34.2%	6.5%	1.1%	12.5%

②対象：保護者

項目：⑪立川市民科では、探究的な学びの実現に向けて組織的に取り組んでいる。

(割合)

そう思う	概ねそう思う	あまりそう思わない	思わない	わからない
39.2%	48.5%	3.0%	5.0%	8.8%